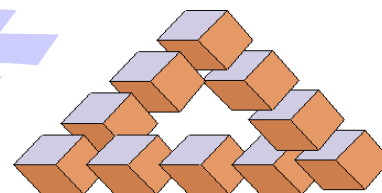


# 会長の独り言



No. 7

H30.4.4

横浜市小学校算数教育研究会長 小林 広昭

研究主題 「数学的に考える資質・能力を育成する算数科学習」  
～数学的な見方・考え方が成長する学び～

## 研究会参加の進め！

今から30年以上前、教員になって、2年目の年に初めて市算研に参加した。勤務校の重点研究が算数だったこともあったが、当時、私は、大して本も読まずに、日々の仕事に追われていた。若さという魅力のせい、担任しているクラスの子どもたちは、何とかついてきてくれていた。でも、このままこの状態を続けていたら・・・といった漠然とした不安を感じていた。若さという魅力がなくなったとき、授業が下手なままではきつとうまういなくなるだろう。本も読まずに勉強もしなければ、きつとろくな教師になれないだろう。このままではいけない、でも、自分一人で勉強するなんてとてもできない。ならば、研究会に行って、少しでも勉強しよう。それが、市研に通い始めた動機である。

働き方改革が叫ばれている今、研究会に通うほどの時間がない、研究している暇もない。仕事に追われて日々を過ごすことで精一杯。そう感じている方も多いのではないかと。でも、子どもとかかわる時間が長いのは、授業。その授業を充実させることを避けて、私たちの仕事は成立するのだろうか。

昨年3月に学習指導要領が告示された。今回の改訂は、子どもたちのために資質・能力の育成を図ろうと叫ばれてきた教育界で、なかなか授業が変わらない現実を何とか打破したいという思いが込められている。市算研でも今までの研究をベースとしながらも、資質・能力を育成する授業像を明らかにしようとして模索している最中である。授業像の追究は、一人でできるものではない。大勢の知恵を結集して、粘り強く取り組む必要がある。また、誰かに教えてもらってできるようになるものでもない。互いに学び合いながら、自分でつかみ取っていかなければ、授業を変えることなどできない。そのために研究会に通い続けることが不可欠である。自分の授業を真摯に見直し、研究会での学び合いを通して、自ら変容をめざしていくときである。初めて参加する方は、わからないことも多いと思うが、石の上にも三年である。粘り強く通うことでわかることも増えてくる。今こそ、目の前の子どもたちのために、研究会に通い、授業改善を図ってほしいと考える。

<この「会長の独り言」は、印刷して配付していただいてもかまいません。>